

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200020		
法人名	医療法人社団誠和会		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	香川県丸亀市土器町東3丁目621番地		
自己評価作成日	令和2年3月31日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	令和2年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「のんびり ほがらか いい暮らし」と理念に掲げ、利用者の方が笑顔で過ごし穏やかな生活が送れるように取り組んでいる。医療との連携を密にし、安心して暮らせる環境を提供、可能な限り自由でその人らしさを尊重した生活が送れるよう支援している。中野医院とも密に連携して入居者様の健康維持管理に努めている

事業所の理念を基に各職員はより具体的な目標を立て、その目標を職員間で話し合い、理念を共有して利用者本位の気持ちに沿った支援に努めている。コロナの感染予防のために新しい生活様式が問われる中、従来のサービスが低下しないようにケイタリングの導入や動画の発信などの新しい支援の取り組みに努めている。開設当初から継続されている毎月の「ほのぼのだより」は、利用者一人ひとりの状況が記載され、文書やイラスト等は職員の得意分野を活かした手書きで温かみがあり、事業所の宝物として喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は利用者一人ひとりとのコミュニケーションを大切にそのその人のペースにあった生活が笑顔で注意過ぎで、ときにあった生活が笑顔で送れるように日々実践している	職員で作成した理念を玄関に掲示するとともに、事業所の年間目標に準じて各職員が掲げた目標を、カンファレンス時にすり合わせを行うなど、理念を共有した実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日本舞踊・フラダンスや大正琴、懐メロなどのボランティアの訪問や近くの保育所児童との交流、スーパーへの買い物に行っている	事業所内の行事は地域に回覧して周知を行っている。コロナの感染予防を念頭に地域との交流を職員間で話し合い、近所に事業所のできた野菜や誕生日会に牡丹餅を配るなど、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解をしてもらえるように家族会・地域の運動会参加、香川短大生の実習生の受け入れ、ホーム内での行事案内の回覧を回して参加を促している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度開催している、メンバーは本人、家族、地域の方々、民生委員、宮司さん、警察署署員、市役所職員の参加でホームでの活動報告、情報・意見交換を行っている、	本人・家族・民生委員・宮司・警察署員・市職員をメンバーとして、2ヵ月に1回開催している。事業所の行事や職員の取り組みも含めた活動の報告、身体拘束に関する議題等を、多方面の立場から意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢者支援課が、主催しているグループホーム連絡会に参加して情報の共有と意見交換を行っている	市主催の年4回のグループホーム連絡会に参加したり、オンラインやファックス、メール等を活用して、連携を密に図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス内部研修を通して身体拘束・行動制限について職員全員で話し合い取り組んでいる、身体拘束対象者にはご家族に緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書を書いてもらっている、運営推進会議においても年3回議事として話し合いを行っている。	身体拘束適正委員会の開催や毎月のカンファレンスを利用して身体拘束に関する研修や検討を行い、身体拘束をしないケアに努めている。また、年3回、運営推進会議に議題として取り上げ、メンバーで検討を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について内部研修を年2回行い、些細な事でも見逃さないように職員同士が注意しあっている、職員の言動に注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部に研修に出かけたり、機会があるごとに出席して、研修時全員に報告している。成年後見制度についても勉強している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族・利用者に管理者が入居前に説明して納得して頂き契約している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や行事の時にご家族からの要望・意見・苦情等を聞く機会を設けて、運営に反映させるようにしている	利用者からは日常の関わりの場で、家族には面会や行事の開催日に併せて行う家族会で意見や要望を聞き、運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや内部研修時に気づいた事を一人一人が意見や提案を出し合って検討している	カンファレンスでは職員全員は必ず一言は話せる場があり、また、代表者は1日に1回は来所して、職員の要望を聞く機会を設けている。例えば、職員の提案により、血中酸素飽和濃度測定器を購入するなどの要望を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況や実情の把握に努め、評価し給与・手当・休暇等でやりがいなど、各職員が向上心を持って職場の環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は内部・外部研修の参加を促し、職員の力量を把握し、職員の技術・知識の向上の機会を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム連絡会等の研修に参加に交流しサービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人と信頼関係を気づく為に、不安な事・困っている事に傾聴して本人に安心感を持ってもらうように関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合い家族が求めている事を理解しニーズに合った関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを話し合い必要な支援を見極め適切な対応をするように心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることと介助・介護が必要な事を見極めて日常生活の援助をする		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の交換は密に行いご本人の代弁者として多くの情報をご家族からも得ることが出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際は家族にも協力してもらい馴染みの場所に外出してもらえるようにサポートしている	現在はコロナ感染対策を考慮して、玄関先での短時間の面会となっている。「ほのぼののだより」や「ほのぼの通信」、利用者の動画を家族に発信する等の工夫を行い、馴染みの人との関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が誰と会話しているか、食事をするテーブルに誰と一緒にするなどスタッフと話し合う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても遊びに来ていただけるよう声掛けし必要に応じて連絡をとりフォローしたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや意見を読み取り外出・帰宅など本人の希望が反映できるよう支援している	日頃の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、利用者が安心感を得られるようにタクティールケアによる支援を行っている。利用者がいつも話される思い出の場所に家族と職員が同行して行き、非常に喜ばれたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報収集やご本人との会話の中で把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察や行動記録申し送りやカンファレンス等により現状の把握しより良いケアに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで意見を聞き方向性を検討しそれを反映したプランを作成している	本人には直接に、家族には面会時や電話で意見を聞き、職員全員が参加してカンファレンスを行い、会議記録を参考に利用者等の意見や要望も反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の発言・行動をそのまま忠実にカルテに記入しのちのモニタリングにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズにより相談しながら臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々の行事への協力 保育園児との交流等地域連携を活用し豊かな生活が送れるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族・は希望されるかかりつけの医の継続を大切にしているが、中野医院や近くの協力医療機関に変更が多くなっている	本人や家族が希望する医療機関の受診を尊重している。診療科目により、家族や職員が同行するなど臨機応変に受診支援を行い、相互に情報を共有している。協力医療機関とは、午前と午後に電話にて情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内や医院の看護師に状態報告や相談をし適切な受診や看護を受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療関係者と密に連絡をとり相談や情報交換など共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームにての介護・援助ができなくなると入院での治療となる	入居時に事業所の方針を説明し同意書を得ている。随時、話し合っ利用者や家族が希望する支援に努めている。利用者の状態により、対応策も示されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、定期的に研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実践している又、利用者を避難場所へ誘導搬送する訓練を行っている	月に1回、事業所内で少人数による避難訓練を実施している。地域の民生委員に見守りの依頼の回覧をお願いしている。水や食料品の備蓄は確保されている。ハザードマップ上では土器川の水没地域に該当するので、避難場所は近隣の同事業所の3階としている。	避難訓練後の課題や問題点を職員や運営推進会議等で検討を行い、大規模災害を想定した避難訓練の実施と、更なる地域との具体的な協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレは各居室にあり、プライバシーは保たれている 入浴はプライバシーに気を配り一人ずつ入浴してもらっている	プライバシー保護に関する研修会を開催するとともに、気になる言葉かけは代表者が注意するなど、利用者の人格を尊重した対応に努めている。入浴や排泄時にはプライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分自身の思いを表してくれるように決めつけるような言葉遣いに注意し本人に選んでもらえるような場面作りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見や思いを尊重し希望に沿った時間を過ごせるような支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り・顔そりや散髪の支援している好きな服装の把握その人らしさが保てるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の食事は一人一人の好みを生かしながら支援していく	献立は同事業所内の栄養士が作成している。現在は外食に出れないので、時には外食気分を味わってもらうため、和・洋・中華などのメニューを選択できるケイタリングを利用したり、おやつ作りは利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分量を確認し一日分の水分量を記録するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア—の声掛け介助にて一人ひとりの状況に応じた支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握しタイミングを見ながら声掛け、トイレ誘導を支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけを行っている。夜間はおむつ、昼間はリハビリパンツに、バルンカテーテルから尿取りパットに改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対しての工夫はお薬に頼るだけでなく、フルーツジュースや牛乳の定期的な摂取により促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴介助をしている見守りにも努める入浴剤(アトピスマイル)使用	入浴回数や入浴時間は利用者の希望に沿った支援を行っている。利用者の身体状態に応じて見守りや介助を行い、入浴をゆっくりと楽しめるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を取ってもらえる様に日中行動を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎服薬時の日付・記名者の読み上げなど誤薬することがないように注意し、変更時にも確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活に合わせて楽しみや趣味役割を行ってもらえるようにしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出ホーム内での行事に参加(祭りの見物・花火・花見など)に出かける	散歩などの日常的な外出以外に、季節感や外の雰囲気に触れる機会として、祭りや花火、菖蒲園、ばら園、道の駅等に家族も参加できる外出の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の心身を考慮のうえ、ホームが管理して自由に使えるように対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がかけたい時にいつでも電話をかけられるようにしたり、かかってきたときに取り次ぐようしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の掃除の徹底季節ごとの花や行事でめりはりをつける	共用室には利用者との共同作業による季節ごとの作品を掲示するなど季節感を醸し出している。環境衛生面にも配慮し、清掃にも徹底するように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご家族の支援もあり利用者の馴染みのあるものや花等で住居スペースを色とりどり出来ている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル、ソファを置き利用者同士で会話をしたりテレビを見たりし自由にくつろげるようにしている	居室にはエアコン・トイレ・洗面所・小ダンスが設置されており、利用者の馴染みの物の持ち込みも可能である。また、テーブルやソファを置き、利用者同士が自由に寛げる場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やトイレの場所が分かりにくい時は張り紙などにて対応。自立支援出来るよう本人にとって安心した環境で生活できるように支援している		